



樹木いきいき講座 <その21> 3班 藤原満男

～常緑広葉樹・針葉樹・落葉樹～

暖地に多い**常緑広葉樹**(広島に多いクス・カシなど照葉樹を含む)は、冬も葉を付け、わずかな光合成をしています。全体としては常に緑の葉でおおわれていますが、翌年の春に新葉が出てから古い葉を落とすクスノキやユズリハ、翌年の秋に古い葉を落とすクチナシなど、3～4年付けて古い葉を落とすマテバシイ、5～6年付けているタラヨウなどがいます。クスノキやクロガネモチの中には4月に新葉が開く前に(常緑樹なのに)

葉をすべて落とすことがあります。エゾマツやトドマツなどの常緑の**針葉樹**は、冬を迎えるにあたって葉や枝・樹皮の細胞内の糖や樹脂の濃度を高め凍りにくくしています。暖かくなったらすぐに光合成出来ます。厳しい寒乾風が吹き、雪の少ない地方で育つカラマツの仲間は冬に落葉します(落葉の針葉樹)。寒い地方に適応した**落葉樹**は、その年の秋に全部の葉を落とし、翌年新しく出直します。カシワやクヌギ

のように新葉が伸びる直前まで枯れ葉を落とさずにいるものもいます。落葉する前に葉緑体を分解して窒素やマグネシウムなどのミネラルを枝の方に回収するので緑色が退色します。酸と糖が結合しアントシアンができる**と紅葉し**、カロチノイドの色が現れると**黄葉**になります。



「ユズリハ」常緑広葉樹。春、枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲るように落葉。代々栄える縁起物として正月に飾られる。



春に葉を落とすクスノキ
～常緑広葉樹～



3～4年葉を付けるマテバシイ
～常緑広葉樹～



秋に葉を落とすカラマツ
～落葉針葉樹～



葉を付けたまま冬を越すカシワ
～落葉樹～